

□ 主な内容

【公共交通の「快適性・安心性評価指標」を公表！】

国土交通省では、公共交通機関の快適性・安心性向上を図る取組みを促進するため、平成 24 年度末までの快適性・安心性評価指標の数値を公表しました。

【平成 26 年度エコドライブ活動コンクールへの参加者募集開始！】

エコモ財団は、エコドライブ活動について優れた取組みを行っている事業者を表彰する「エコドライブ活動コンクール」を開催します。皆様からの応募をお待ちしています。

□ 目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 94 回)

●「交通分野から環境問題の原因を考える」

【(公財)交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部課長代理 熊井 大】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 94 回)

●「『ダテバイク』で取り組む低炭素都市づくり」

【仙台市 地域政策部自転車交通安全課長 中村 喜陽】

3. ニュース／トピック

●公共交通の「快適性・安心性評価指標」について【国土交通省】

●エコタイヤ及び先進環境対応型ディーゼルトラックの導入に対する補助の 2 次募集について【国土交通省】

●夏季の省エネルギー対策決定について【経済産業省】

●平成 26 年度エコドライブ活動コンクールへの参加者募集【エコモ財団】

●京都の交通政策に係る京都府と京都大学の連携協定について【京都府、京都大学】

●「愛媛マルゴト自転車道」推進における連携について【愛媛県、日本マイクロソフト】

●「ストップ地球温暖化 大分県ノーマイカーウィーク」の実施について【大分県】

●超小型モビリティの市民利用開始について【つくば市】

●奈良市役所駐車場でのパークアンドライド・サイクルライドの実施について【奈良市】

●自転車シェアリングサービスの実験導入について【大阪大学】

●住民の移動ニーズへの対応と事業者利益の向上を両立するオンデマンド交通運行技術の開発について【富士通研究所】

●環境負荷低減のための太陽光発電所新設について【東武エネルギーマネジメント】

●「気候保護行動プログラム 2020」の骨子公表について【ドイツ連邦環境省】

4. イベント情報

- 交通政策基本法シンポジウム【2014/5/30】
- ITS あいち県民フォーラム 2014【2014/6/2】
- モビリティウィーク&カーフリーデー2013 報告会 &2014 説明会【2014/6/6】
- エコライフ・フェア 2014【2014/6/7-8】
- 公開シンポジウム 2014 低炭素社会に向けて【2014/6/13、27】
- エコドライブ講習会【2014/7/8】
- 第 9 回日本モビリティ・マネジメント会議【2014/7/25-26】
- 第 4 回地域の交通環境対策推進者養成研修会【2014/10】
- 第 12 回 ITS シンポジウム 2014【2014/12/4-5】
- エコプロダクツ 2014(第 16 回)【2014/12/11-13】

5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 94 回)

●「交通分野から環境問題の原因を考える」

【(公財)交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部課長代理 熊井 大】

「なぜ、環境問題がなかなか解決しないのか？」という質問を受けることがあります。

質問に答える際、私は『環境に配慮された製品・サービス』と『環境に配慮されていない製品・サービス』があるとしたならば、あなたはどちらを選びますか？」と逆に質問をさせていただきたいと考えています。

例えば、環境に配慮された製品・サービスを「公共交通の利用」、環境に配慮されていない製品・サービスを「マイカーの利用」と仮定したとします。全ての人が常に環境に配慮された公共交通を利用してくれるのであれば、公共交通機関の収益が改善し、その結果、公共交通のサービス水準が向上することによって、さらなる公共交通の利用者が増加し、環境問題は解決に向かうはずで

しかしながら、現実的には、常に公共交通を利用する人はなかなかいません。その理由について、例えば、マイカーの方がドア・ツー・ドアで便利だとか、地方ではマイカーの方が早いとか、人によってはマイカーの方がかっこいいという人もいますし、公共交通の乗り方がよく分からないという人もいます。

結局日本において、現状特に地方では、マイカーによる移動が多くなります。マイカーで移動した人にとっては、早く、快適に移動できるという利益を得ることができますが、マイカー移動が増えれば、CO2 による地球温暖化、NOx・PM による大気汚染、さらには渋滞といった不利益を社会全体が受けることとなります。このように利益を得る人と不利益を受ける対象が一致しないことが、環境問題の解決を難しくしている一つの原因と考えられます。

環境問題の解決には、PPP (polluter-pays principle、汚染者負担原則) が基本となります。この原則に従うと、不利益を与えたマイカーが何らかの手段でこの環境問題を解決しなければならないこととなり、例えば、本格的な環境税や混雑課金制度 (ロードプライシング等) の導入などが考えられますが、環境税については、政府、与野党、経済団体等において考え方の違いもあり、なかなか本格的な導入に至らない状況ですし、混雑課金制度についても、導入される地域の住民に理解を求めることが難しく、導入に至らない状況です。

このような状況下で、現在、各地で地道かつ継続的な EST の取組みが行われています。これらの取組みは非常に重要ですが、マイカーを対象とした抜本的な対策をそろそろ考える必要があるのではないのでしょうか。2012 年にオリンピックを開催したロンドンでは、1990 年代に混雑課金制度の検討を開始し、導入に向けた社会実験を繰り返した後、2003 年から中心部に制度を導入しました。混雑課金制度の導入は、地域に様々な影響を与えるため、2020 年にオリンピックやパラリンピックを控えている東京も一概に導入すべきか議論が必要ですが、これらの研究や検討を開始することについて、議論を活性化する時期に来ているのではないかと考えます。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 94 回)

●「『ダテバイク』で取り組む低炭素都市づくり」

【仙台市 地域政策部自転車交通安全課長 中村 喜陽】

本市では、平成 23 年 3 月に策定した仙台市基本計画において、4 つの重点政策を定めています。その 1 つとして「自然と調和した持続可能な都市づくり」を進めることとしており、省資源・省エネルギーの仕組みが組み込まれた環境負荷のより小さい「低炭素都市づくり」を進めています。低炭素都市づくりにあたっては、都心における公共交通や自転車の利用促進に取り組むなど、環境負荷の小さい交通手段利用への転換を図ることとしております。

この基本計画の策定を受け、平成 25 年 7 月に「みんなにやさしい自転車利用環境づくり」を目標とした「杜の都の自転車プラン～仙台市自転車利用環境総合計画～」を策定しました。

この自転車プランの基本方針の 1 つである「自転車の楽しさを感じられる環境づくり」を推進していくために、民間活力を活用し導入したのが「仙台コミュニティサイクル ダテバイク」です。

ダテバイクの特徴は、自転車本体に通信機能を持つ端末を搭載することにより、設置に用地の制約を受け、多額の費用の掛かる機械式サイクルポートを不要としたことです。また、女性やお年寄りにも使いやすい電動アシスト付の自転車を採用しています。

このダテバイクも平成 25 年 3 月の導入から早 1 年 2 か月が経過しました。導入当初、約 600 人でスタートした利用登録者は平成 26 年 3 月末現在で 8,072 人となり、着実に市民の新たな交通手段として定着してきています。利用登録者の増加に合わせ、当初 100 台で始めた自転車も 145 台に増車し、また、当初 12 箇所であったサイクルポートも 24 箇所に増やし、利用者の利便性向上を図っています。

本市においては、平成 27 年に地下鉄東西線が開業し、既存の南北線とあわせ都心を中心に十字の軸ができあがります。バス路線網の再編も予定しており、公共交通を中心とした交通体系が大きく転換することとなります。公共交通のみならず各交通手段のあり方、特に自転車利用のあり方も新たな段階へとシフトさせていく必要があります。

公共交通の利便性を向上させるのに合わせ、各地下鉄駅、主要なバス停及び地下鉄沿線各拠点施設等へのサイクルポート設置を検討し、自動車以外の新たな交通手段の選択肢を増やし、さらなる低炭素都市づくりを進めていきます。公共交通とダテバイクが相乗的に利用され、地下鉄沿線地域も経済的に活性化するような、本市のまちづくりの一翼をダテバイクが担っていきたいと考えております。

3. ニュース／トピック

●公共交通の「快適性・安心性評価指標」について【国土交通省】

国土交通省では、公共交通機関の快適性・安心性向上を図る取組みを促進するための方策の一つである快適性・安心性評価指標(ICE Index of Comfortable and Easeful public transportation)について、平成 24 年度末現在までの数値を公表しました。関係者の協力を得て、首都圏並びに近畿圏の鉄道事業者において 8 項目の指標と、首都圏並びに近畿圏のバス事業者についてノンステップバス導入率の指標の計 9 項目の指標を公表しています。

<http://www.mlit.go.jp/common/001039653.pdf>

●エコタイヤ及び先進環境対応型ディーゼルトラックの導入に対する補助の 2 次募集について【国土交通省】

国土交通省では、平成 25 年度補正予算における「トラック輸送の省エネ対策の推進(燃料費高騰対策)」のエコタイヤ及び先進環境対応型ディーゼルトラックの導入に対する補助について、2 次募集に係る補助金の対象及び申請方法等について公表しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000074.html

●夏季の省エネルギー対策決定について【経済産業省】

経済産業省では、6月から9月まで、夏季の省エネルギー対策を促進するため、省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議を開催し、「夏季の省エネルギー対策について」を決定しました。運輸関係については、「運輸分野における省エネ法に基づくエネルギー管理の実施」、「公共交通機関の利用促進」、「エネルギー消費効率のよい輸送機関の選択」、「エコドライブの実践」について産業界等に対する周知及び協力要請を行います。

<http://www.meti.go.jp/press/2014/05/20140516001/20140516001.html>

●平成 26 年度エコドライブ活動コンクールへの参加者募集【エコモ財団】

エコモ財団では、独自に様々なエコドライブを普及推進するための活動を実施しています。この活動の一環として、エコドライブ活動について優れた取組みを行っている事業者を表彰する「エコドライブ活動コンクール」が昨年度に引き続き開催されます。現在参加者を募集しており、申し込み期間は7月18日(金)までです。

<http://www.ecodrive-activity-concours.jp/>

●京都の交通政策に係る京都府と京都大学の連携協定について【京都府、京都大学】

京都府と京都大学は、これまでに連携して行ってきた「都市・交通政策を担う実務者の人材育成」、「自治体の都市・交通分野の政策支援」等をさらに発展・継続させ、京都の歴史と文化を保ちながら、京都議定書が採択された地として、環境負荷が小さく、世界に誇ることができるような、京都らしい先進的な交通環境を構築することを目的として、連携協定を締結しました。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/topics/all/gakukyo/vz2gzd>

●「愛媛マルゴト自転車道」推進における連携について【愛媛県、日本マイクロソフト】

愛媛県と日本マイクロソフトは、ICT 利活用促進を通して、愛媛県内の地域活性化や情報リテラシー向上を図るための覚書を本年1月に締結し、「地域活性化協働プログラム」を協働実施することで合意しています。この覚書に基づいて、両者連携して開発を進めてきた「愛媛マルゴト自転車道サービスサイト」を公開しました。

<https://www.pref.ehime.jp/h30200/260422koukai.html>

●「ストップ地球温暖化 大分県ノーマイカーウィーク」の実施について【大分県】

大分県では、平成26年6月、9月、12月、平成27年3月の各月1日からの1週間、県民参加型の地球温暖化対策として、公共交通機関の利用や徒歩、自転車での通勤等を促し、できる限り自動車の利用を控える「ストップ地球温暖化 大分県ノーマイカーウィーク」を実施します。

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/13020/nomycarweek.html>

●超小型モビリティの市民利用開始について【つくば市】

つくば市では、平成 26 年 1 月に導入した超小型モビリティの市民利用を開始しました。市民利用開始に合わせた公開講習会及び利用開始式を平成 26 年 5 月 9 日に行い、モニター 14 名が出席し、利用が開始されました。

http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/016/335/No25.pdf

●奈良市役所駐車場でのパークアンドライド・サイクルライドの実施について【奈良市】

奈良市では、春の観光シーズンにおける奈良公園周辺の交通渋滞を緩和するため、奈良市役所駐車場(無料)において、土曜日、日曜日、祝日にパークアンドライド・サイクルライドを実施しています。

<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1346999426329/index.html>

●自転車シェアリングサービスの実験導入について【大阪大学】

大阪大学では、吹田キャンパスにおいて、3つの自転車ステーションを設置し、学生や教職員が無料でキャンパス内の移動に活用することができる自転車シェアリングサービス「COGOO」を実験導入しました。

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2014/05/20140508_01

●住民の移動ニーズへの対応と事業者利益の向上を両立するオンデマンド交通運行技術の開発について【富士通研究所】

富士通研究所では、MIT(Massachusetts Institute of Technology)と協同で、住民の多様な交通移動ニーズに応えるとともに事業者利益も向上させるオンデマンド交通運行技術を開発しました。需要に応じて同一の車両をタクシーや乗り合いといった異なる運行モードに動的に割り当て、利用者は複数の運行モードから乗車便を選択可能で、東京近郊の都市をモデルにしたシミュレーションでは、従来の運行方式と比べて利益が最大で約 80%向上することを確認しています。

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2014/05/8.html>

●環境負荷低減のための太陽光発電所新設について【東武エネルギーマネジメント】

東武エネルギーマネジメントでは、環境負荷低減と持続可能な活力ある低炭素・循環型社会づくりの一助として、東武鉄道および東野交通の所有地や建物の屋根上等を活用し、太陽光発電所 5 か所を新設し、平成 26 年秋から平成 27 年春までに順次発電を開始します。

http://www.tobu.co.jp/file/pdf/e0756a2a0f02da8069ecbae64eb5768b/140509_1.pdf?date=20140509104155

●「気候保護行動プログラム 2020」の骨子公表について【ドイツ連邦環境省】

ドイツ連邦環境省では、「気候保護行動プログラム 2020」の骨子を公表しました。ドイツでは、温室効果ガスを2020年までに1990年比で40%削減する目標を掲げており、この行動プログラムは、全ての部門に対し、この目標の達成を確実にするための対策を示すものです。骨子では、現状やその結果として生じる必要な対策、個々の部門における削減ポテンシャルの要点、対策プログラムを策定するための更なる措置の枠組みをまとめています。

<http://www.bmub.bund.de/bmub/presse-reden/pressemitteilungen/pm/artikel/hendricks-legt-eckpunkte-fuer-br-aktionsprogramm-klimaschutz-2020-vor/>

4. イベント情報

●交通政策基本法シンポジウム

日時:2014年5月30日(金) 18:30~20:50

場所:くまもと県民交流館パレア会議室 1

主催:NPO 法人 くまもとLRT 市民研究会

<https://www.facebook.com/lrt.kumamoto>

●ITS あいち県民フォーラム 2014

日時:2014年6月2日(月) 13:30~16:30

場所:栄ガスビル 5階 栄ガスホール

主催:愛知県 ITS 推進協議会

<http://www.pref.aichi.jp/0000071098.html>

●モビリティウィーク&カーフリーデー2013 報告会 & 2014 説明会

日時:2014年6月6日(金) 18:00~20:00

場所:JICA 地球広場・セミナールーム 202AB

主催:一般社団法人カーフリーデー・ジャパン

<http://blog.goo.ne.jp/cfdjapan>

●エコライフ・フェア 2014

日時:2014年6月7日(土)、8日(日)

場所:代々木公園

主催:環境省

<http://www.ecolifefair.go.jp/>

●公開シンポジウム 2014 低炭素社会に向けて

日時:(東京会場)2014年6月13日(金) 13:00~17:30

(奈良会場)2014年6月27日(金) 13:00~17:30

場所: (東京会場)メルパルクホール、(奈良会場)奈良県新公会堂

主催: 独立行政法人 国立環境研究所

<http://www.nies.go.jp/event/sympo/2014/>

●エコドライブ講習会

日時: 2014年7月8日(火) 13:00~16:30

場所: 中部トラック総合研修センター

主催: 愛知県、一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)愛知支部

<http://www.pref.aichi.jp/0000071971.html>

●第9回日本モビリティ・マネジメント会議

日時: 2014年7月25日(金)、26日(土)

場所: とかちプラザ(レインボーホール他)

主催: 一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議

<http://www.jcomm.or.jp/>

●第4回地域の交通環境対策推進者養成研修会

日時: 2014年10月上旬(予定)

場所: 富山駅近くの会議場等(予定)

主催: EST 普及推進委員会、エコモ財団、北陸信越運輸局

※参考: 第3回地域の交通環境対策推進者養成研修会(岐阜)

<http://www.estfukyu.jp/training2013.html>

●第12回 ITS シンポジウム 2014

日時: 2014年12月4日(木)、5日(金)

場所: 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

主催: 特定非営利活動法人 ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/its_symposium12/

●エコプロダクツ 2014(第16回)

日時: 2014年12月11日(木)~13日(土)

場所: 東京ビッグサイト 東ホール

主催: 一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/eco2013/contact/2014.html>

5. その他

- EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、34団体が参加しています。
会員サイトでは、アジアEST地域フォーラムの和訳資料の掲載をはじめています。
http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html
- 平成26年度エコドライブ活動コンクールへの参加者募集(7/18まで)
<http://www.ecodrive-activity-concours.jp/>
- EST普及推進委員会事務局はTwitterによる情報提供を始めています！
<https://twitter.com/officeEST>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
配信申込はこちらから
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html
- 記事募集中！
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。
→ E-mail: magazine@ecomom.or.jp (担当: 熊井)

=====

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

ESTポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>